

株式会社にしばた 代表取締役社長 西端 順一 様

謹啓 時下益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

この度の令和二年七月豪雨災害に際しましては、支援物資の御寄附を賜りましたこと、誠にありがたく、あらためて心から御礼を申し上げます。

いただきました御寄附の品は、避難所に身を寄せる方々に配給させていただいたほか、今後の災害対応等における備蓄品として、市民のために有効に使用させていただく所存でございます。

さて、この度の豪雨におきましては、九州全域で甚大な被害が発生し、停滞する梅雨前線のため、不安な日々が続きました。

熊本県南部では、球磨川流域のほか、本市に隣接する芦北町及び津奈木町でも、大規模な土砂災害や浸水被害により、多くの人命が失われ、道路網やライフラインは寸断され、現在も、堆積した泥と災害廃棄物の山との格闘が続いていると聞いております。

本市では、家屋の床上・床下浸水は二百棟を超え、斜面の崩壊、河川・水路の破損、道路の崩落、農地の冠水など、多大な影響が残っております。

また、二次災害の防止が急務となっている箇所も残り、市民の安全を確保するため、避難体制の見直しや、避難所でのコロナ対策の徹底など、残された課題は山積しております。

このような中、多くの皆様から賜りました御支援は、復旧に向けた大きな力となりますとともに、復興に向けた市民の動きにも大きな励みとなっております。

本市は、平成十五年に十九名の尊い命を失った土石流災害を経験しました。発生から十七年が経過しましたが、我々はその経験、教訓を忘れることなく、今後、後世に伝え続けていくとともに、今後の災害復旧・災害対応に生かしながら、市民の安心・安全を守るための取り組みに全力を挙げていく所存でございます。

本来であれば、拝眉のうえ、御挨拶申し上げるべきところではありますが、取り急ぎ書面にて失礼申し上げます。

結びに、益々の御健勝を心から祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。

謹白

令和二年八月吉日

水俣市長 高岡利治